

出題の傾向と意図

英 語

各試験日とも、マークシート方式による60分・100点満点の試験です。

試験では、英語の読み書きを中心に、主に理解力と運用能力を問う問題が出されます。具体的には、①英文読解力を問う問題、②英語の構造を理解し、英文を構成する力を問う問題、③基礎的な文法の力を問う問題、④慣用的な表現や語彙力を測る問題などがあげられます。①の問題では、英文を1つずつ正確に読み取る力と併せて、ある程度の長さの英文を読んで、全体の意味を把握する力があるかをみます。②の問題では、単語を並べ替えて意図した意味を伝える正しい英文を作る力があるかをみます。③の問題では、基礎的な文法について、単に知識として知っているのではなく、その知識を使って正しい英文を作ることができるかをみます。

どの問題も、英語でコミュニケーションをとる際に不可欠な、基礎的な英語運用能力があるかどうかを確かめるものです。日頃から使える英語として英語を学び、身に着けるように心がけてください。大学受験で求められる英語力は決して特殊なものではありません。これまで学んだ英語に関する知識を確かなものにし、その知識をもとに様々な英語表現を理解し、使えるようにしてください。

また、読解力を養うには、語彙力を高めるのはもちろん、日頃からある程度の長さの英文を読むようにしてください。その際、一文一文を訳すのではなく、文章全体を読んでその内容を理解するように心がけましょう。また、文法や慣用表現については暗記するのではなく、例文を活用して自分で英文を作れるまで使いこなせることを目指してください。

国 語

前期試験は、複数の現代文および言葉の知識を問う問題が出題されます。出題はすべてマークシート方式で行われます。問題文は、高校での読書や学習のレベルを越えないよう注意をはらって選ばれています。設問の内容も、論旨の展開、文脈の把握、全体的な内容の理解、言葉の意味、成句・慣用句の理解、簡単な文学史の知識、漢字の知識などを問うオーソドックスなものです。この設問のあり方・傾向は今年度も変わりません。

後期試験もマークシート方式の出題で、前期と同様の複数の現代文および言葉の知識を問う問題が出されます。傾向は前期と同じですので、前期試験の過去問題も参照してください。

「国語」の出題は、高校での読書や学習の標準的な成果を問うもので、学校での日々の授業や学習にいかに取り組んできたかが、結果に現れてきます。

受験生諸君は一般に、クリックをすれば映像が現れ、音楽が流れ、キーパッドをたたけば定型文が画面に出てくるという環境に、生まれながらにして浸っています。しかし、人間の活動や思考の基本は、やはり本を「読む」と自力で「書く」ことにあります。日頃からこの二つの訓練を怠らないようにしてください。

政治・経済

政治・経済の問題は、各試験日とも大問3題で、政治・経済の全分野から幅広く出題されます。問題形式は、すべてマークシート方式です。文章の正誤問題や語句選択問題、組合せ問題などのように、基本的事項を正しく理解しているかを問うものだけでなく、図表を読み解く統計資料問題や計算問題など、知識と論理的思考力を問うものも出題されます。

設問は、教科書の範囲を中心としつつ、新聞やニュースで関心を集めている時事問題が出題されることもあります。

教科書や資料集に書かれている基本的な事項について正しく理解することが主な対策となりますが、日頃からニュースに触れて、現在進行中の様々な社会問題に対してもアンテナをしっかりと立てておきましょう。

また、一見複雑そうな統計資料問題や計算問題も、ボリュームに惑わされずに、問題文を論理的に読み解きながら、じっくり考えて解答してほしいと思います。教科書や資料集にある、図表を用いた発展的な解説にも触れておくと、よいトレーニングになるでしょう。

日本史

日本史の問題は、各試験日とも例年通り、時代や分野の偏りがないように大問3題を組み合わせ出題しています。史料を読み解く問題を、大問3題のうち、ひとつには組みこむようにしていますが、いずれも、教科書を基礎とした普段からの学習の積み上げによって十分答えられるものになっています。いま学んでいる教科書で、まずは時代の流れをしっかりとつかんでください。

分野別では、全時代にわたって思想や経済・社会に関する設問で正答率の低さが目立ちます。制度でも文物でも、それが出現した時代背景や経緯、その出現後の影響などをあわせて理解するよう心がけてください。出来事を時代順に並べ替えるなど、例年正答率の低い設問も、こうした学習を積み重ねていけば解けるはずです。また、教科書や資料集の写真・図表などの視覚的な資料を、その説明とともに見ておくことも知識の定着に役立つでしょう。

総じて教科書を熟読するのが最も大事と言えますが、その際は重要な語句に注目するだけでなく、地の文の意味をじっくりと理解するように心がけましょう。同じ語句や事件が、教科書のなかで複数回取りあげられる場合に、それぞれの説明を組み合わせると、どのようなイメージが作れるか、試してみるのも良いでしょう。

世界史

各試験日ともに、問題の大半は、ほとんどの教科書に載っている事項を問うものになっています。教科書をきちんと勉強し、問題集を解いて、分からないところや自身の弱点となっているところを調べるということを反復すれば、高得点を取ることができるはずです。

ただ、問題の文章は教科書と異なる観点で書かれていることが多いですから、単に教科書を丸暗記するのではなく、内容を政治、経済、社会、宗教、思想、文化などの複数の観点から理解し、応用できるようにしておきましょう。また、教科書ではヨーロッパ、アジア、アメリカなどの地域に分けて叙述されていますが、地域間の交流や関連性に留意しながら、歴史の流れを整理することも大切です。地球的な視野で歴史をみるように心がけましょう。

歴史は因果関係が重要です。教科書を丸暗記するだけでは、歴史を理解したことにはなりません。ある事件がなぜ起こったのか、そして社会にどのような影響を与えたのか。こうしたことを考えながら、勉強してください。現代の世界の諸問題も、すべて歴史に深い根をもっています。新聞などで世界情勢に注意しておくことも役に立つでしょうし、世界史に対する関心を高めるでしょう。

出題に際しては、地域や年代に偏ることがないように心がけています。古代から現代までの世界の諸地域について、幅広く勉強しておきましょう。

数 学

各試験日とも、出題範囲は数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aです。出題形式はマークシート方式を中心に出题しますが、全学統一方式前期の一部に記述方式を出題します。いずれも教科書レベルの基本的な内容をきちんと理解していれば、十分解答可能な問題になっています。受験に際しては、次の点に注意してください。

(1) 解答のプロセスを丁寧に記述できるようにしておくこと。記述方式の問題では、解答を導いたプロセスを数式や文章を用いて採点者にしっかり伝える必要があります。普段から丁寧な解答作りを心掛けましょう。ただ何となく解答するのではなく、はっきりとした方針のもとに解答を作成する練習をしてください。

(2) 計算力をつけておくこと。マークシート方式の場合、解答を導くプロセスが正しかったとしても、途中の計算で間違いをしていれば得点にはなりません。教科書や参考書の練習問題を何度も解くことで計算力をつけると同時に、検算する習慣をつけてください。

(3) 問題文を注意深く読み、内容を取り違えないこと。難しく見える問題でも、良く読めば簡単である場合が多いはずです。

(4) 図を描いてみる。図から解答のヒントが見つかるような問題も有ります。日頃から図を描いて、問題をイメージでとらえ、図で考える訓練をしましょう。